

果樹を加害するチャバネアオカメムシの多発生が予測されます！

果樹園内への飛来に注意して下さい！

[発令の内容]

作物名：果樹類（ナシ，カキ，リンゴ，ブドウ等）

害虫名：チャバネアオカメムシ

発生量：多い

発生地域：県下全域

[発令の根拠]

- ① 本年 2 月中旬に県内 42 地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査では，越冬数は平年よりやや多く（本年値 4.8 頭，平年値 2.7 頭），越冬地点率は平年よりやや高い（本年値 74%，平年値 35%）。
- ② 5 月中旬現在，サクラ果実におけるチャバネアオカメムシの生息数は平年より多く，サクラ果実の吸汁果率は平年より高い（表 1）。
- ③ 5 月第 4 半旬現在，果樹園内に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は，笠間市及びかすみがうら市で平年より多い（図 1，図 2）。5 月第 3 半旬までのチャバネアオカメムシ総誘殺数は，笠間市で過去 11 年中 1 位，かすみがうら市で過去 11 年中 3 位である。

表 1 サクラ樹におけるチャバネアオカメムシの生息数および吸汁果率（5 月中旬調査，笠間市泉）

調査項目	本年(平成26年)		多発年(平成24年) ^{※4}		平年 ^{※5}
	調査値	順位 ^{※3}	調査値	順位	調査値
生息数(頭) ^{※1}	19	2	10	3	1.1
吸汁果率(%) ^{※2}	96.0	1	46.7	2	13.0

※1 ビーチング法によりサクラ10結果枝から得られた成虫数

※2 採集したサクラ果実30個中，カメムシの吸汁痕がある果実の割合

※3 過去11年中の本年値の順位

※4 予察灯誘殺数が過去10年で最も多かった年

※5 過去10年(平成16年～平成25年)の平均値

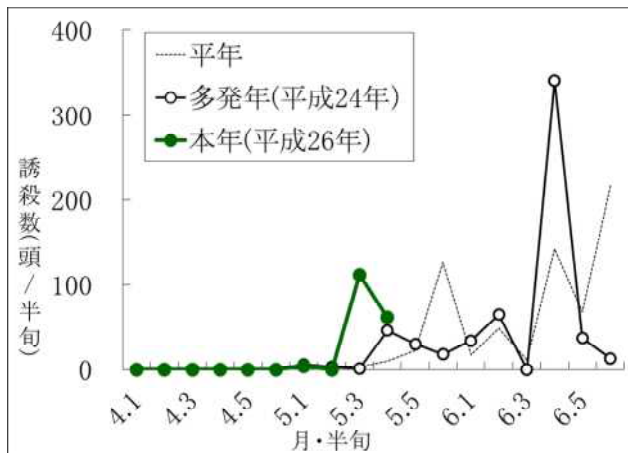


図 1 チャバネアオカメムシの予察灯（笠間市：園芸研究所，ナシ園）への誘殺数

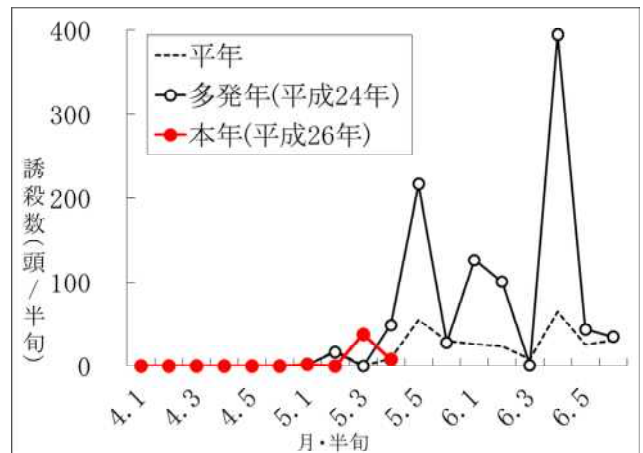


図 2 チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市，ナシ園）への誘殺数

[防除対策]

- ① 多目的防災網（目合い 6mm または 9mm クロス以下）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるため、果樹園への飛来に注意する。果樹園への飛来が多い場合は、表 2 を参考に薬剤防除を行う。
- ③ いずれの薬剤(表 2)も、直接虫体にかかれば殺虫効果は高い。殺虫効果の持続期間はネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系で 5～10 日程度、有機リン系薬剤で 2～3 日程度である。
- ④ 合成ピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招く恐れがあるので注意する。

表2 カメムシ類に登録のある主な薬剤（平成26年5月14日現在）

系統名	薬剤名	ナシ	カキ	リンゴ	ブドウ
ネオニコチノイド系	アクタラ顆粒水溶剤	○	○	○	
	アドマイヤー水和剤	○	○		
	アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○
	バリアード顆粒水和剤	○		○	
	ダントツ水溶剤	○	○	○	○
合成ピレスロイド系	スカウトフロアブル	○	○		
	テルスターフロアブル	○	○	○	
	アグロスリン水和剤	○	○		
	ロディー水和剤	○	○		
	MR. ジョーカー水和剤	○	○	○	
有機リン系	スミチオン水和剤40	○	○	○	
その他	キラップフロアブル		○	○	

注) ・ブドウでは、栽培状況により果粉溶脱や汚れの恐れがあるため、農薬ラベルに書かれた使用上の注意事項及び使用方法を必ず確認する。
 ・薬剤を散布する場合は、必ず農薬のラベルを確認し、農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意する。



写真1 ナシを加害するチャバネアオカメムシ



写真2 カメムシ類に加害されたリンゴ果実